

A Prospective observational study using sea cucumber and honey as topical therapy for diabetic foot ulcers in Indonesia

著者	ハリアント
著者別表示	Haryanto
journal or publication title	博士論文要旨Abstract
学位授与番号	13301甲第4697号
学位名	博士（保健学）
学位授与年月日	2018-03-22
URL	http://hdl.handle.net/2297/00051284



平成 30 年 2 月 20 日

博士 論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1529022020

氏 名 HARYANTO

論文審査員

主 査 (職名) 表 志津子 (教授)



副 査 (職名) 須釜 淳子 (教授)



副 査 (職名) 中谷 壽男 (教授)



論文題名 A prospective observational study using sea cucumber and honey as topical therapy for diabetic foot ulcers in Indonesia

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究の目的は海鼠の糖尿病足潰瘍 (Diabetic Foot Ulcer : DFU) における創傷治癒効果をバイオフィーム、腫瘍壊死因子 (TNF- α)、マトリックス分解酵素 (MMP) -2、9 を指標として評価することである。研究デザインは前向き観察研究である。42 名の糖尿病患者に新規に発生した DFU に、海鼠あるいは蜂蜜が創部に使用された (各群 21 名)。調査場所は、インドネシア西カリマンタン・ポンティアナックにある創傷専門クリニックまたは創傷外来であった。調査期間は 2016 年 3 月から 2017 年 2 月であった。創傷は 12 週間観察された。海鼠使用群では、調査開始時と比べ 8 週、10 週、12 週の TNF- α が有意に低下した ($p=0.005, 0.006, 0.010$)。両群のバイオフィーム陽性→陰性変化割合に有意差はなかった ($p=0.55$, Fisher exact test)。さらに群間の創傷治癒に有意差はなかった ($p=0.66$, Kaplan-Meier 解析, log rank test)。海鼠は DFU の創傷局所療法として使用可能であると示唆された。

【審査結果の要旨】

DFU は慢性創傷の一つであり、容易に感染を併発し、治癒が遷延するだけでなく、重症化すると下肢切断や敗血症による生命危機をもたらす創傷である。このため DFU の局所管理において、いかに感染制御をうまく行うかが鍵となる。海鼠の抗炎症作用、抗菌作用、創傷治癒効果については生物学的、薬理的にビトロあるいは実験動物にて報告されている。しかし臨床においての創傷治癒効果については報告されておらず、本研究によって臨床のエビデンスが提供された。発表は初めて聞く人に配慮したわかりやすいものであった。また、質疑応答において、バイオマーカーの選定理由、測定の妥当性、海鼠の抽出法について質問されたが的確に回答していた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。